諏訪市埋蔵文化財調査報告第54集

市内遺跡試掘調査報告書

（平成１２年度）

―― 長野県諏訪市内遺跡試堀調査報告書 ――

２００１．３

諏 訪 市 教 育 委 員 会

例　言

1．本書は、長野県諏訪市内遺跡の平成１２年度試掘確認調査報告書である。

2．本調査は、諏訪市教育委員会が調査主体者となり、諏訪市教育委員会の編成する諏訪市遺跡調査団が調査を担当した。

3．それぞれの現場における調査期間は、遺跡ごとに記載してある。報告書作成作業は平成13年２月から平成13年３月まで、諏訪市埋蔵文化財整理室で行った。

4．本文中における水糸レベルは可能なかぎり絶対標高を使用している。その他は現地における地形図からの読取りの標高である。

5．現場における記録と整理作業の分担は次のとおりである。

遺構等実測……青木正洋・田中　総・藤森敏幸・藤森　豊・宮坂今朝芳

遺物水洗・注記作業……藤森（敏）・藤森（豊）

遺物実測及び遺構遺物トレース・図面写真整理……藤森（敏）・藤森（豊）・青木・田中

6．本書の執筆についてはⅠ　事務局、それ以外を青木と田中が担当した。

7．調査の記録は、諏訪市教育委員会で保管している。

各遺跡の略称および出土遺物の注記は以下のとおりである。

（湖南南澤遺跡――ＫＭＩＮ　福松砥沢遺跡――ＦＵＫ３　清水窪遺跡――ＳＭＫ）

8．発掘調査及び報告書作成に際し、調査・整理作業参加者の他に下記の方々はじめ多くの方々に御指導・御教示を得た。記して感謝申し上げる。

中島隼人・藤森伸一・藤森清夫・（株）パナホーム東海・河西泰勇・（株）イザットハウス諏訪店・商工組合中央金庫・（宗）法華寺・高島小学校・諏訪市教育委員会学校教育課・坂本設計事務所・（株）金子工務店・（株）大同建設・小池岳史・長野県教育委員会文化財・生涯学習課

（目次）

例言・目次

Ⅰ．市内遺跡試掘調査について ―――― 1

Ⅱ．湖南南澤遺跡試掘調査 ―――― 3

Ⅲ．福松砥沢遺跡試掘調査 ―――― 5

Ⅳ．清水窪遺跡試掘調査 ―――― 7

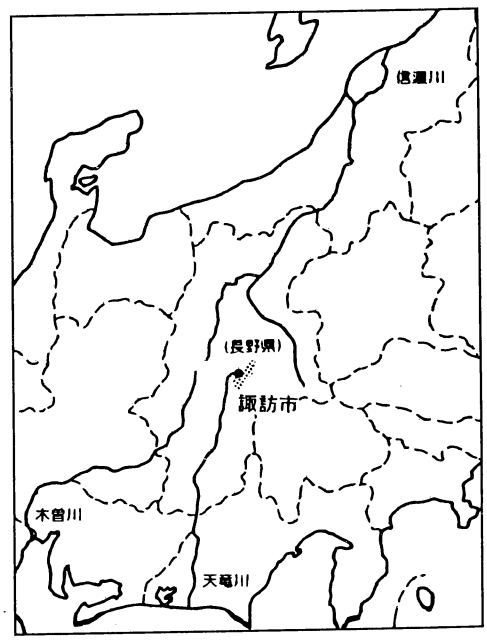
Ⅴ．二本松遺跡（隣接）試掘調査 ―――― 8

Ⅵ．法華寺境内試掘調査 ―――― 9

Ⅶ．高島小学校校庭試掘調査 ―――― 11

報告書抄録

写真図版



Ⅰ　市内遺跡試掘調査について

1．今年度の試掘調査

諏訪市内遺跡における開発行為は、近年小規模の個人住宅建設が主体となってきている。市教育委員会では、これらの開発行為に迅速に対応するため、教育長を団長とする諏訪市遺跡調査団を編成し、国庫・県費補助事業として「市内遺跡発掘調査事業」を実施し、遺跡の保護を図っている。

本年度は、包蔵地内における確認調査を３件と隣接地や遺跡の存在が予想される地域などの計６件の調査を実施したので、本書により報告する。

なお、試掘調査は実施していないが、工事立ち会いなどで対応した遺跡等は、四賀小学校校庭遺跡や福松砥沢遺跡、霧ヶ峰農場遺跡近接地などの５ヶ所ほどであった。

・補助事業決定の経過（抄）

平成12年４月13日付け12生学文第３号

平成12年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書　市内遺跡発掘調査事業（国庫）

平成12年５月31日付け12生学文第４号

平成12年度文化財補助金交付申請書　市内遺跡発掘調査事業（県費）

平成12年５月31日付け庁保伝第７号（12教文第１－32号）

平成12年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定通知　市内遺跡発掘調査事業（国庫）

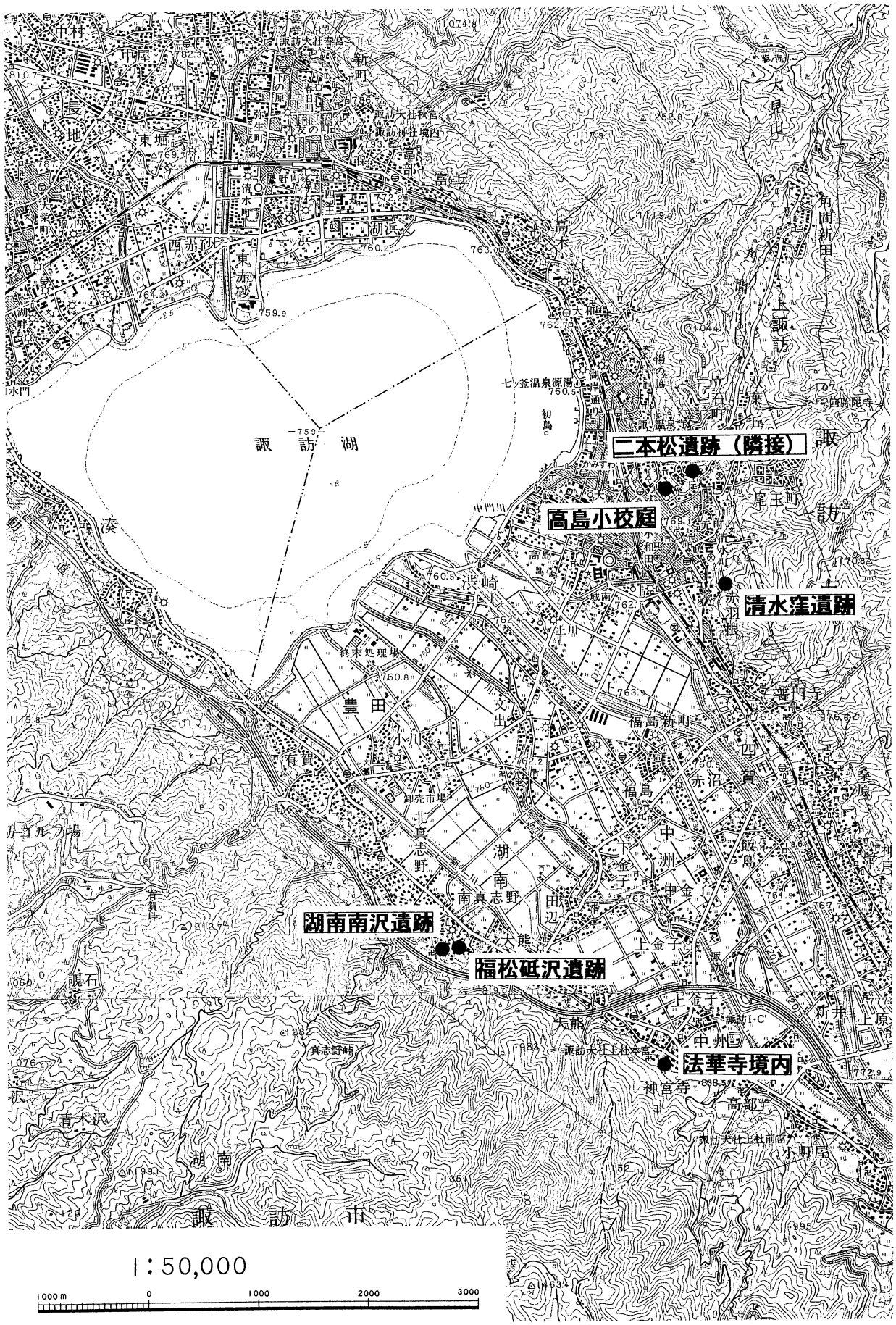
平成12年６月１日付け長野県教育委員会教育長指令12教文第２－32号

平成12年度文化財補助金交付決定通知　市内遺跡発掘調査事業（県費）

2．調査組織

諏訪市遺跡調査団（平成12年度）

団　長	細野　祐	（諏訪市教育委員会　教育長）
副団長	渡辺　功	（諏訪市教育委員会　教育次長）
	宮坂光昭	（諏訪市文化財専門審議会　委員）
調査担当	青木正洋・田中　総	（諏訪市教育委員会　学芸員）
調査団員（調査参加者）		
	宮坂茂子・増沢清久・藤森敏幸・藤森　豊・矢崎末明	
（事務局）		
事務局長	岩波文明	（諏訪市教育委員会　生涯学習課長）
事務主幹	宮坂今朝芳	（諏訪市教育委員会　文化財係長）
事務局員	青木正洋・田中　総	（諏訪市教育委員会　文化財係）



第１図　平成12年度調査遺跡位置図

Ⅱ　湖南南澤遺跡試堀調査

1．所 在 地　諏訪市湖南4626－1
2．調査期間　平成12年10月5日
3．調査面積　16㎡
4．調査目的　個人住宅建設に先立つ試堀調査
5．調査担当　青木正洋
6．検出遺構　なし
7．出土遺物　平安時代土器片 3点
近世以降土器片15点
時期不詳土器片10点

8．調査概要

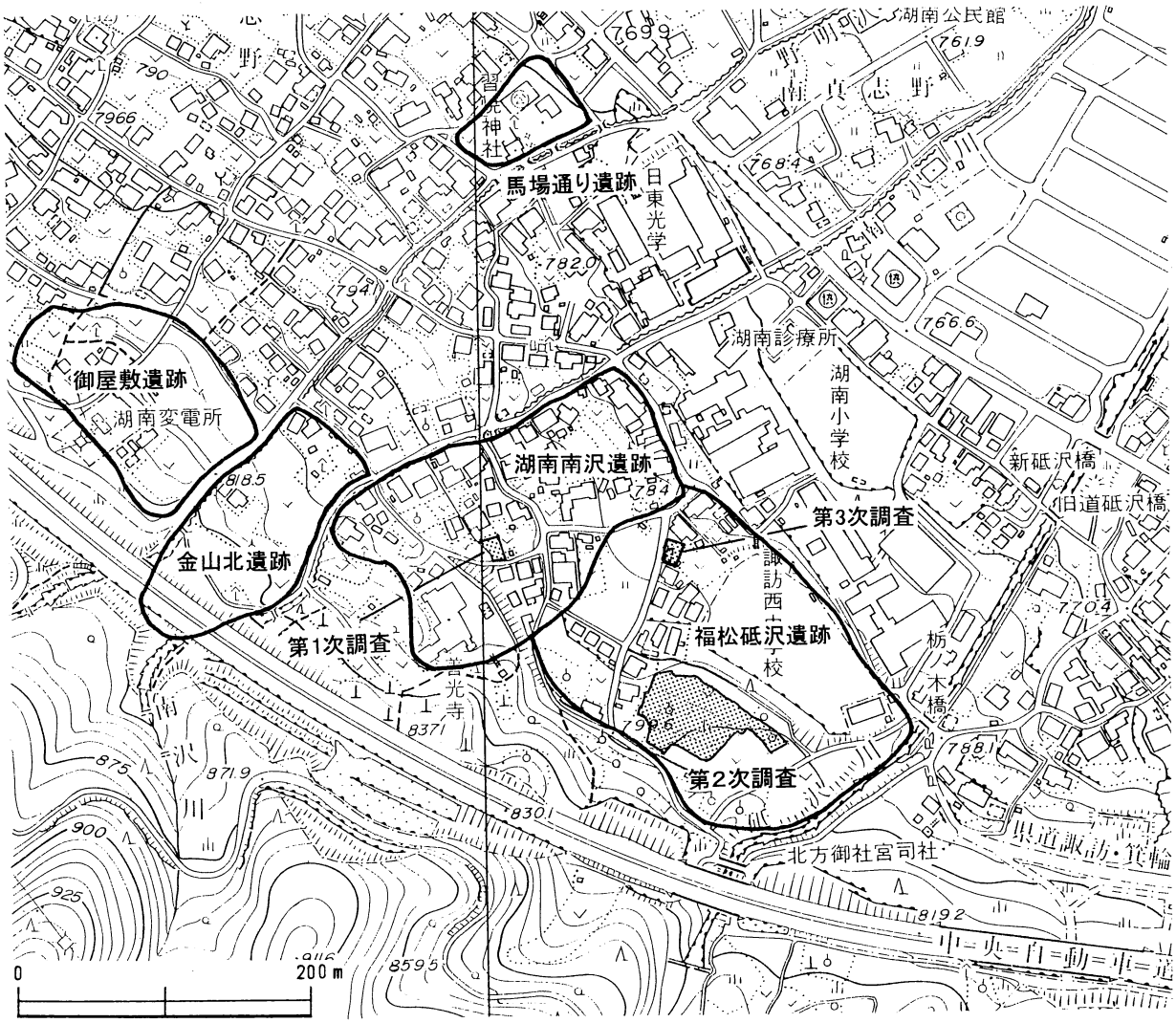
湖南南澤遺跡は、湖南南真志野地籍に所在し、善光寺正面に広がる斜面上に位置する。当遺跡の周辺には平成３年度に発掘調査を行った縄文中期後半～弥生時代後期までの一大集落遺跡である福松砥沢遺跡が隣接しており、また南澤川をはさんだ対岸には金山北遺跡が位置している。湖南南澤遺跡にもこれら遺跡に関連する遺構群が展開していたと思われるが、過去の発掘調査事例が無く、縄文時代前・中期の遺物が採集されたという以外、遺跡の内容については不明なところが多い。

平成12年９月、当該地において住宅建設のための農地転用申請が出され、周知の埋蔵文化財包蔵地内における工事のため、事前の発掘届の提出が必要であることから事業主に発掘届の提出を求め、同年10月２日、埋蔵文化財の発掘届が市教育委員会に提出された。そして埋蔵文化財の分布状況を把握するための調査が当該工事に先立って必要であると判断されたため、10月５日に試堀調査を実施した。

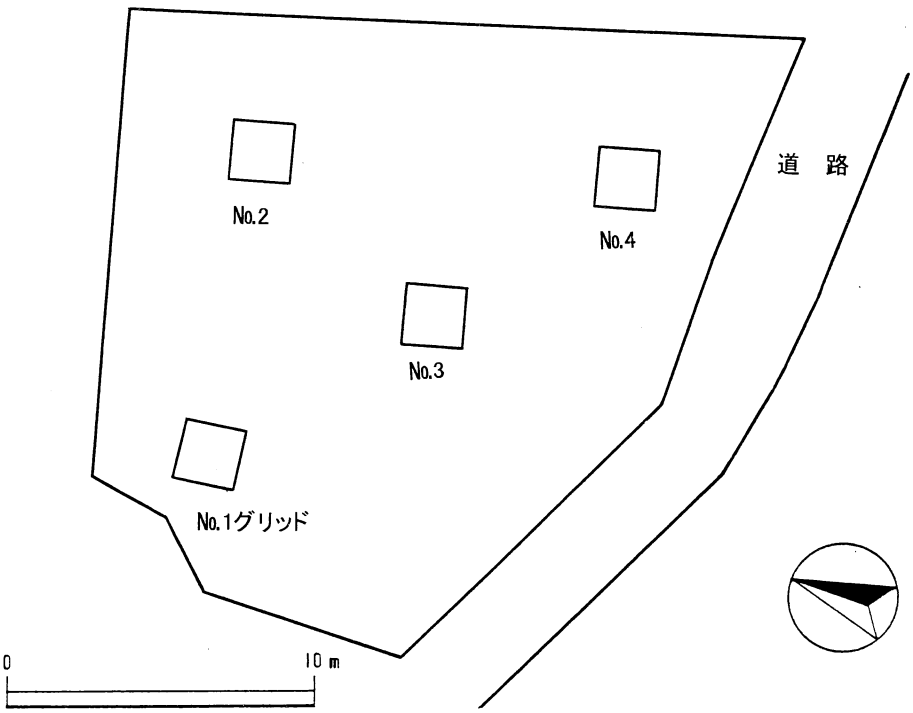
当該工事に関わる面積は307㎡で、このうち宅地となる部分について２×２ｍの試堀グリッドを４ヶ所設定した。現況は耕作地であるが、過去に住宅が建築されていたため、１・２層にはかく乱の痕跡がみられた。近世以降の遺物はこの当時のものと考えられる。

土層については堆積状況の良好な№.４グリッドにおいて、１層：褐色土、２層：礫を少量含む暗褐色土、３層：礫を多めに含む暗褐色土層、４層：黒褐色土という層順が認められた。なお３層については福松砥沢遺跡において弥生時代の遺構群が掘り込まれていた土層（背後の急峻な山麓からの崩落土層）に類似しており、遺跡の時間的な対応を図る上での鍵層になると考えられる。また当該範囲における旧地形は沢状を呈していたとみられ、３層以下の砂礫を主体とした土層は埋没土としてここに厚く堆積したものとみられる。なお３層以下からの遺物･遺構は検出されなかった。出土遺物には平安時代頃の須恵器片が含まれ、遺跡の時期が従来の採集品から想定されていた縄文時代よりかなり新しい時代まで利用されていた可能性を示すことが出来た。

当該調査範囲については、遺跡主体部分から外れると考えられ、発掘調査の必要はないものと判断された。



第2図　遺跡位置図



第3図　調査区全体図

Ⅲ　福松砥沢遺跡試堀調査

1．所 在 地　諏訪市湖南4904-3
2．調査期間　平成13年３月12日～３月13日
3．調査面積　１２㎡
4．調査目的　住宅建設に先立つ確認調査
5．調査担当　青木正洋
6．検出遺構　溝状遺構（時期不明）１基
7．出土遺物　土器片（縄文・弥生・古墳時代以降）６５点
　　黒耀石製石器類等（縄文・弥生）　２０点

8．調査概要

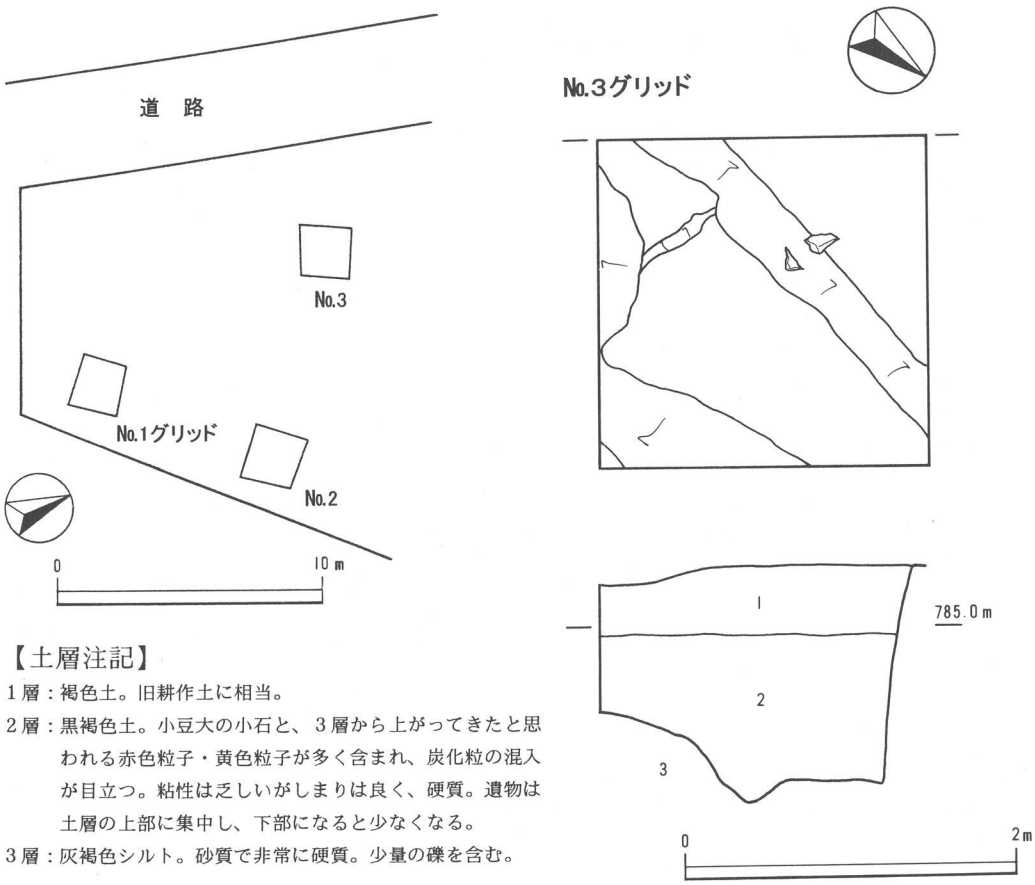
福松砥沢遺跡は、守屋山塊の通称西山の山裾に、砥沢川の氾濫によって形成された扇状台地に立地する縄文時代から平安時代までの大規模な集落遺跡である。諏訪西中学校の校庭造成の際に、多量の土器片が出土したと伝えられているが、資料が残っておらず、詳細は不明であった。平成３年に特別養護老人ホーム建設にともない第２次調査が実施され、縄文時代中期から平安時代までの住居跡や土壙墓群や集石状遺構などが調査され、本遺跡が長い時間にわたって集落として使用されてきたことが判明した。時期不明の住居も含め、総数57軒の集落は市内でも、最大規模の集落と考えられ、また弥生時代における土器の住居内一括出土資料は、該期の諏訪地区内の編年を考えるのに貴重な資料を提示している。

第３次調査となる今回の調査区は、遺跡範囲の北隅に位置する（第２図）。平成13年２月に農地転用申請により、住宅建設が明らかになり協議を行った結果、建設前に確認調査を実施することになり、３月12日～13日に調査を実施した。

調査は、対象面積119㎡のなかに２ｍ×２ｍの試掘グリッドを３ヶ所設定し（第４図）、手堀りによって精査を行った。その結果、１グリッドからは遺構・遺物とも発見されなかったが、２グリッドからは縄文土器片が、そして３グリッドからは、南北にのびる溝状の遺構が発見され、弥生時代の遺物が多量に確認された。いずれのグリッドでも、土層堆積状況から、かなり流れ込みがあったことが窺われる。地山であるローム層自体が流れ込みによる二次堆積土のため、かなり荒れており、２グリッドでもローム直上において礫の大量な流れ込みが認められる。このことは、該地が幾度かの氾濫や土砂崩落によって形成された土地であることの裏付けとなろう。出土した遺物もかなり磨耗している。

出土遺物は、３グリッドの２層中から縄文時代～平安時代までの土器片、石器類が発見された。土器片は磨滅や風化が著しく、時期判別が困難なものが多かった。第５図１は２グリッド発見の縄文時代中期後半の土器片である。２～９は３グリッド出土遺物で、２は縄文時代後期前半に属するもの。３～６は弥生時代中期後半に属する土器類で、６は内外面に朱彩を施した短頸壷である。７は古墳時代初頭のＳ字状口縁をもつ台付甕である。８は黒耀石製石鏃で、９は弥生時代の粘板岩製の磨製石鏃である。

３グリッドで検出された溝状の遺構であるが、他の試掘グリッドと様相が違うため、現段階では拡がり等の把握ができていない。グリッド内ではＵ字形を呈する溝として把握しているが、他の遺構の可能性もある。時期的な判断についても、遺物がほとんど流れ込みの状況では判断が付かなかった。住宅建設では遺構面に影響を与えないため、これ以上の追跡調査をしなかったが、今後も注意が必要である。



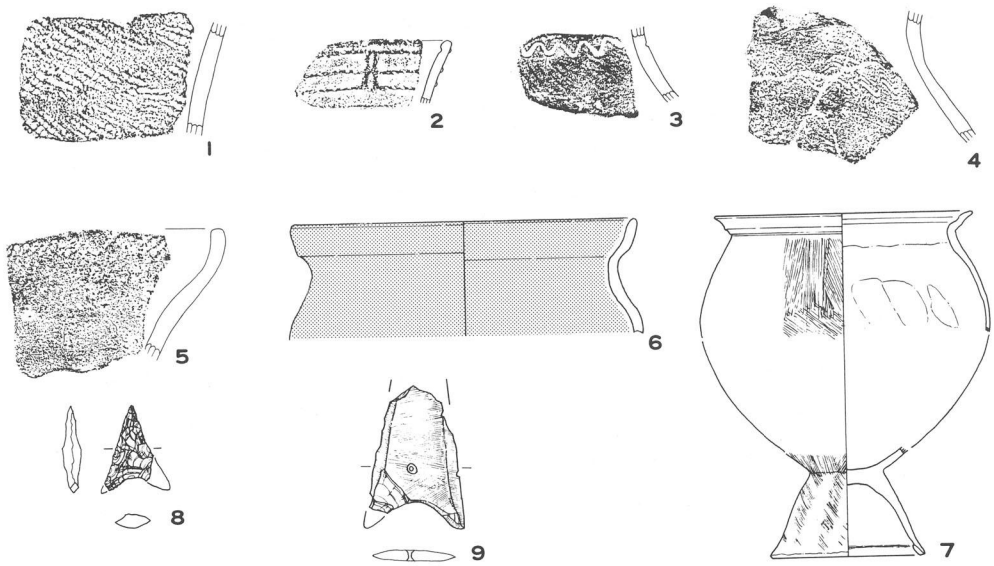
【土層注記】

1層：褐色土。旧耕作土に相当。

2層：黒褐色土。小豆大の小石と、3層から上がってきたと思われる赤色粒子・黄色粒子が多く含まれ、炭化粒の混入が目立つ。粘性は乏しいがしまりは良く、硬質。遺物は土層の上部に集中し、下部になると少なくなる。

3層：灰褐色シルト。砂質で非常に硬質。少量の礫を含む。

第4図　調査区全体図と土層堆積状況



第5図　出土遺物

（1～5：3分の1大、6・7：4分の1大、8・9：3分の2大）

Ⅳ　清水窪遺跡試堀調査

1．所 在 地　諏訪市清水２丁目4825－1

2．調査期間　平成12年11月10日

3．調査面積　６㎡

4．調査目的　個人住宅建設に先立つ試堀調査

5．調査担当　田中　総

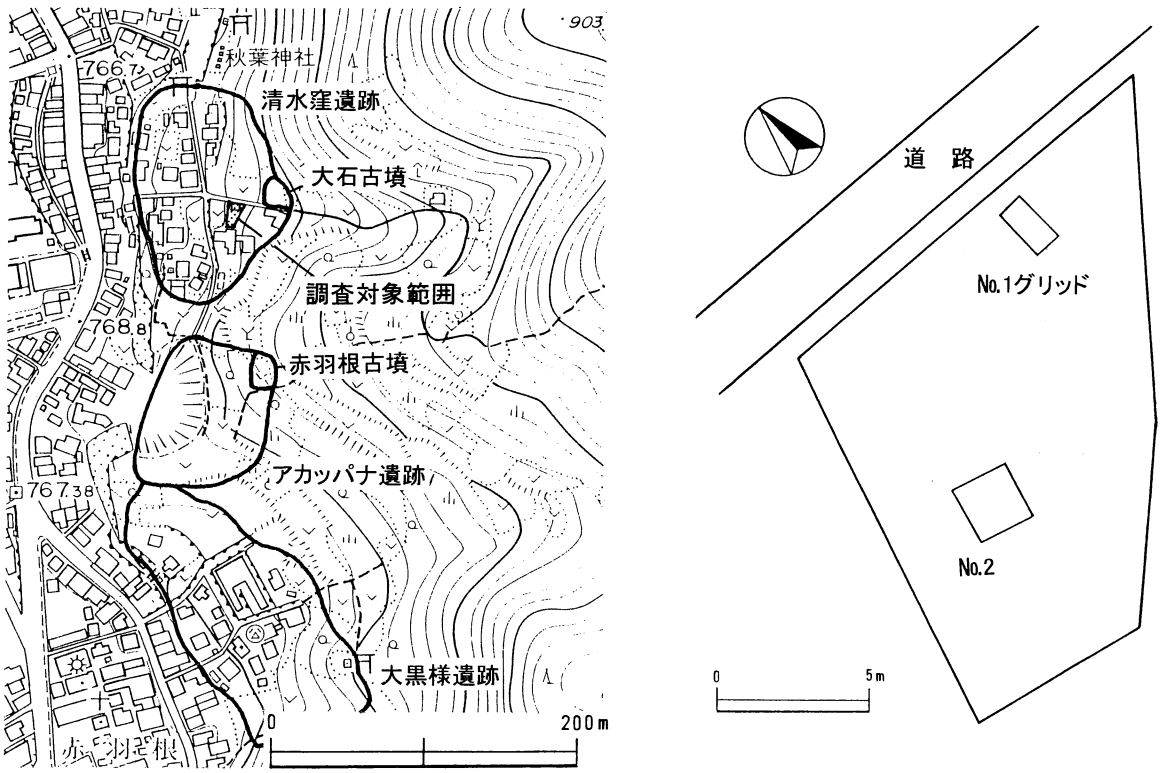
6．検出遺構　なし

7．出土遺物　なし

8．調査概要

清水窪遺跡は、秋葉神社南側の山側へ若干奥まった山麓に立地する（第６図）。戦後間もない頃の宅地工事の際に縄文時代中期、弥生時代中・後期の遺物が出土し、遺跡の存在が明らかとなった。近隣には同様の地形に立地する大黒様遺跡、武津通り遺跡などがあり、上諏訪～四賀地区の遺跡の特徴的な遺跡立地でもある。また遺跡範囲内には横穴式石室を持つ小円墳の大石古墳も存在する。

当該工事予定範囲では２ヵ所の試堀グリッドを設定し、試掘による確認調査を実施した（第6図）。その結果、遺物包含層相当は過去の耕作等により大幅に削平されていることが確認され、明確な遺構・遺物の分布は認められなかった。従って当該工事範囲内については埋蔵文化財の包蔵は認められないと判断され、工事に先立ち発掘調査等の必要性はないものと判断した。



第６図　遺跡位置図と調査区全体図

V　二本松遺跡（隣接）試堀調査

1．所 在 地　諏訪市大字上諏訪9250－5　　2．調査期間　平成12年10月26日

3．調査面積　20㎡　　4．調査目的　遺跡範囲確認調査

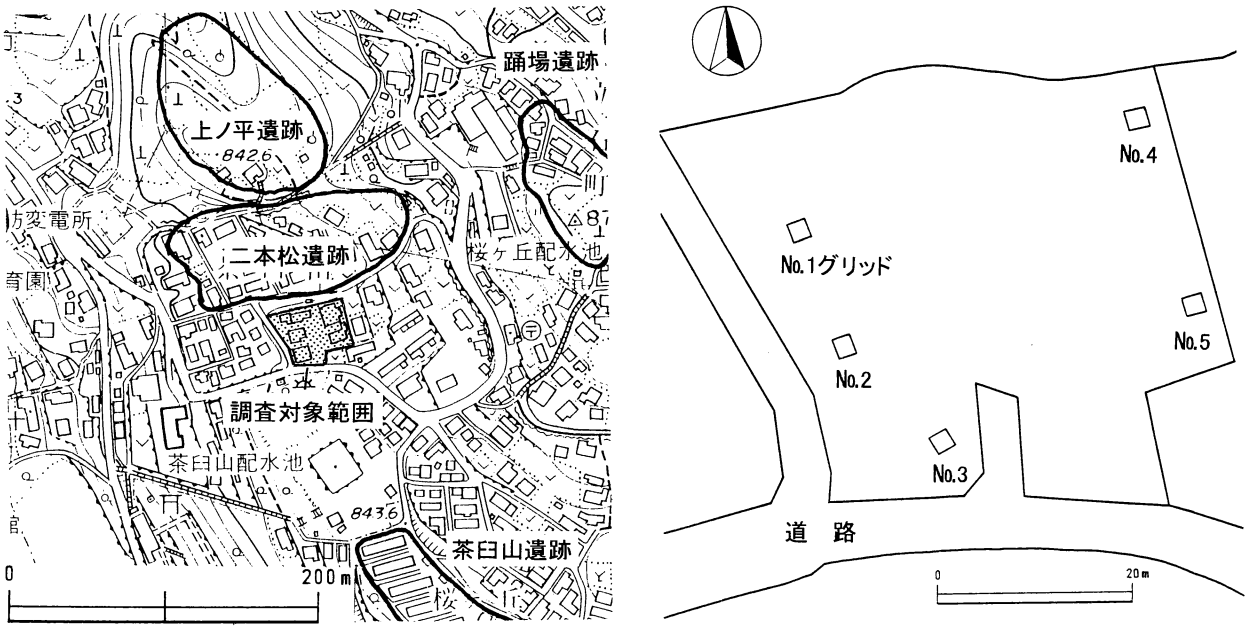
5．調査担当　田中　総　　6．検出遺構　なし

7．出土遺物　なし

8．調査概要

二本松遺跡は旧石器時代遺跡として有名な上ノ平遺跡より沢をはさんで南側に広がる盆地状地形に所在する（第７図）。発掘調査の事例は無いが、以前より平安時代の遺物が採集されており、平安期の遺跡として周知されていた。平成12年９月、土地所有者より当該地についての埋蔵文化財分布の有無についての照会が市教育委員会にあった。実際には周知の二本松遺跡範囲の隣接地であるが、当該遺跡については遺構の分布状況が全く未知であったことから試掘を伴なう確認調査を実施することとした。

現況は平坦なテラス状地形を形成しており、過去には鉄筋コンクリート製の建造物が複数棟建てられていた。調査は建造物によって破壊されていない範囲を対象とし、５ヶ所の試堀グリッドを設定して掘り下げを行った（第７図）。その結果、ロームと黒土の混在した、明瞭な人為的埋め戻しによる土層堆積が地表下約２ｍまで認められ、それ以下も続く様子がうかがえた。なお試堀グリッドからは遺構・遺物の分布は確認されなかった。その後、当該地については大正時代末期の茶臼山配水地建設工事の廃土場所であることが判明し、旧地表面については現況では確認が不可能な、相当深い部分にあると思われ、現状での包蔵地の確認は難しい。今後大規模な工事等が行われる場合については何らかの注意が必要と思われる。



第７図　遺跡位置図と調査区全体図

Ⅵ　法華寺境内試堀調査

1．所 在 地　諏訪市中洲856－1
2．調査期間　平成12年8月2日～3日
3．調査面積　51㎡
4．調査目的　遺跡範囲確認調査
5．調査担当　青木正洋
6．検出遺構　なし
7．出土遺物　なし

8．調査概要

神宮寺跡遺跡は中世～近世にかけて経営されていた諏訪神社上社本宮別当寺の主要である大坊（神宮寺）の範囲が該当し、明治時代に廃仏毀釈が行われるまでは五重塔や普賢堂など大規模な堂塔建築が造られていた（第8図）。諏訪神社上社遺跡は現在の諏訪大社上社本宮の境内範囲を中心とした遺跡である。

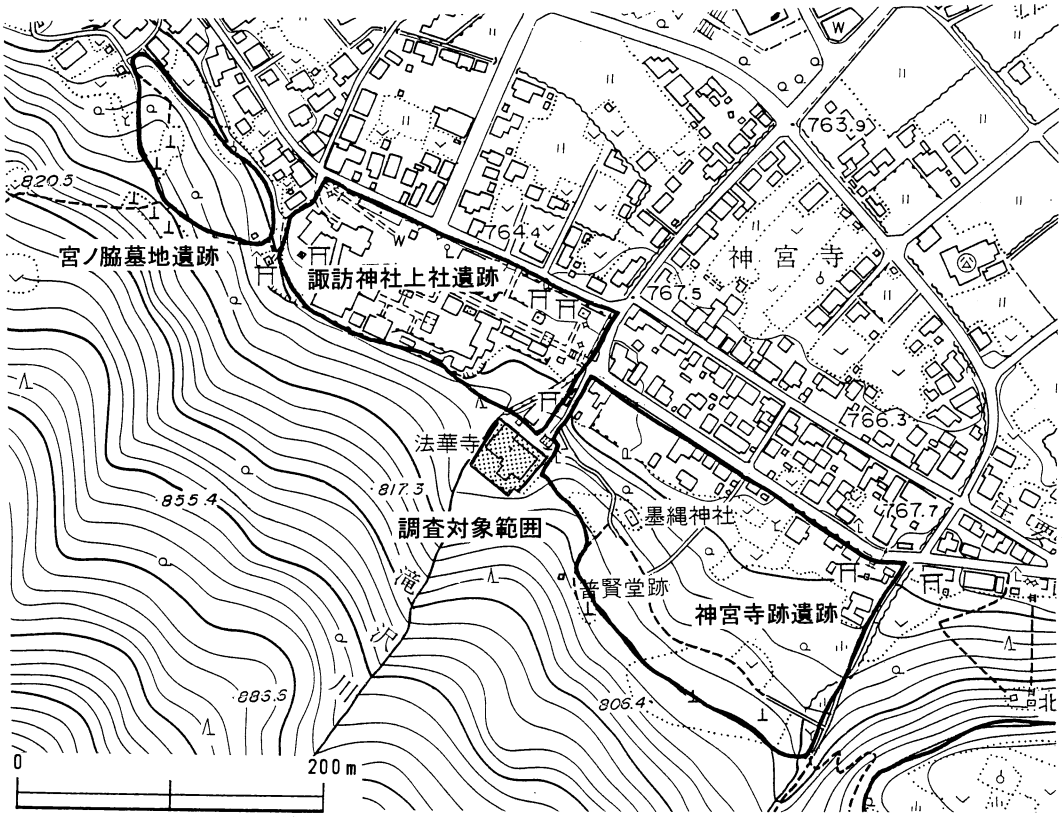
今回の調査対象範囲となった法華寺は中世から創建された寺院で、上社本宮の宮寺に準ずる位置にあり、戦国時代には織田信長の諏訪侵攻に際しての本陣として使用されたこともある。明治時代の廃仏毀釈による取り壊しもなく、江戸時代後期大隅流の建築技法によって建てられた本堂には鎌倉期の仏像をはじめ貴重な文化財が残されていたが、平成11年、不慮の火災により、山門を残してすべて焼失してしまった。しかし翌年には本堂の再建が行われることとなった。

法華寺境内については神宮寺跡遺跡・諏訪神社上社遺跡の範囲外であるが、法華寺自体その姿が江戸後期の絵図などに紹介されている以外、その様態がはっきりしていないこと、そして法華寺創建以前の遺構の存在も考慮されたことから、工事に先立ち試掘確認調査を実施することとした。調査では本堂再建予定地を中心に4ヶ所のトレンチを設定し、基盤相当の土層まで掘り下げを行った（第9図）。

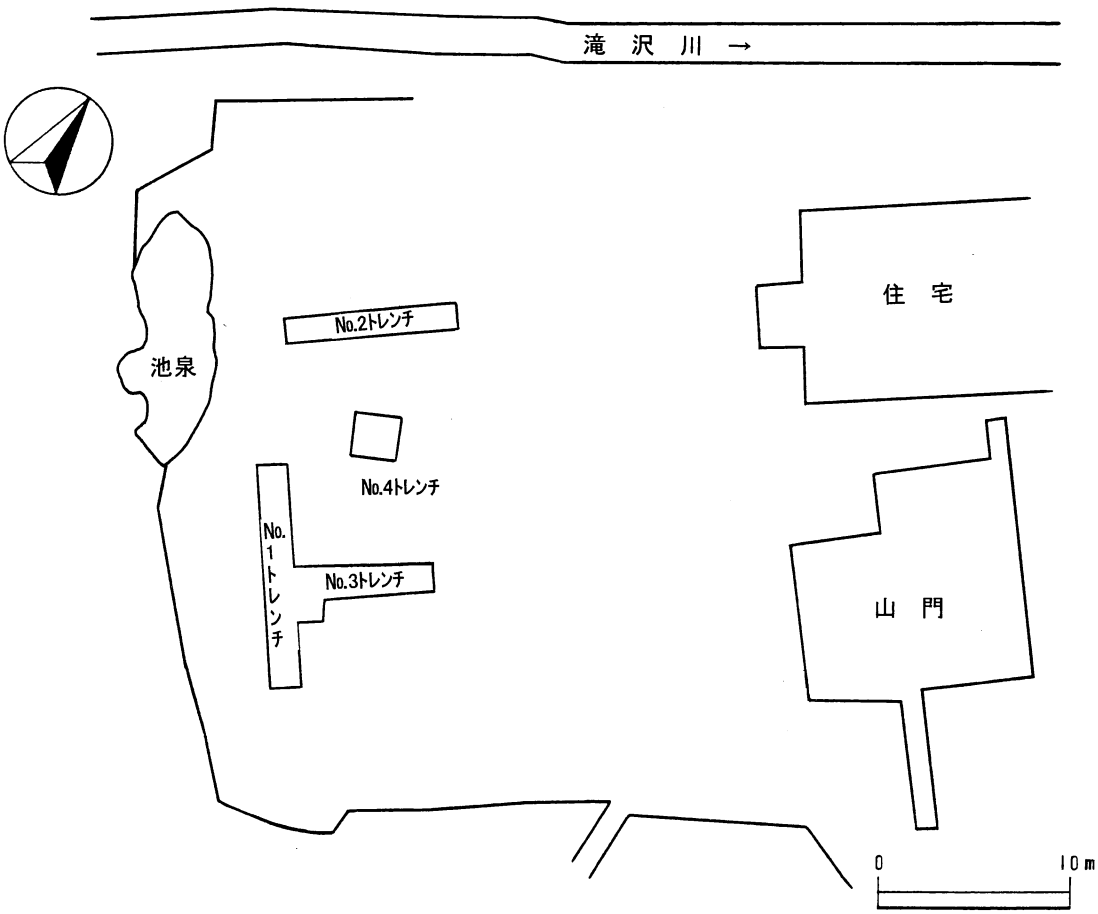
旧本堂の造成面（現地表面）付近については、件の火事の後片付けの際に大きく撹乱されてしまい、この面では遺構の検出は出来なかった。地表面以下約2mまで掘り下げたところ大きく5枚の土層堆積を確認することが出来た。

いずれの土層も砂質を基本とし、まばらではあるが大小の礫が混在していた。№2トレンチの土層観察によれば2層・3層については傾斜した堆積状況が観察され、山麓側から土砂が供給されていたことが判明した。3層は4層上部を斜めにカットしていることから、かつて大規模な土砂崩落が存在したこともうかがうことが出来た。また4層の下部からは湧水が認められ、これによって各土層中にみられた酸化鉄の沈着が促されたとみられる。地表面のかく乱のため結果的にははっきりはしなかったが、本来傾斜面だった1層の上面を平坦に整地することで法華寺境内を造成していたものと考えられる。

今回の調査では各トレンチからの遺物の出土は認められず、遺構も検出されなかったことから、埋蔵文化財包蔵地には相当しないと判断された。



第8図　遺跡位置図



第9図　調査区全体図

Ⅶ　高島小学校校庭試掘調査

１．所 在 地　諏訪市上諏訪9581　　２．調査期間　平成１２年８月７日～８月９日

３．調査面積　６０㎡　　４．調査目的　校舎建設に先立つ試掘調査

５．調査担当　青木正洋　　６．検出遺構　な　　し

７．出土遺物　な　　し

８．調査概要

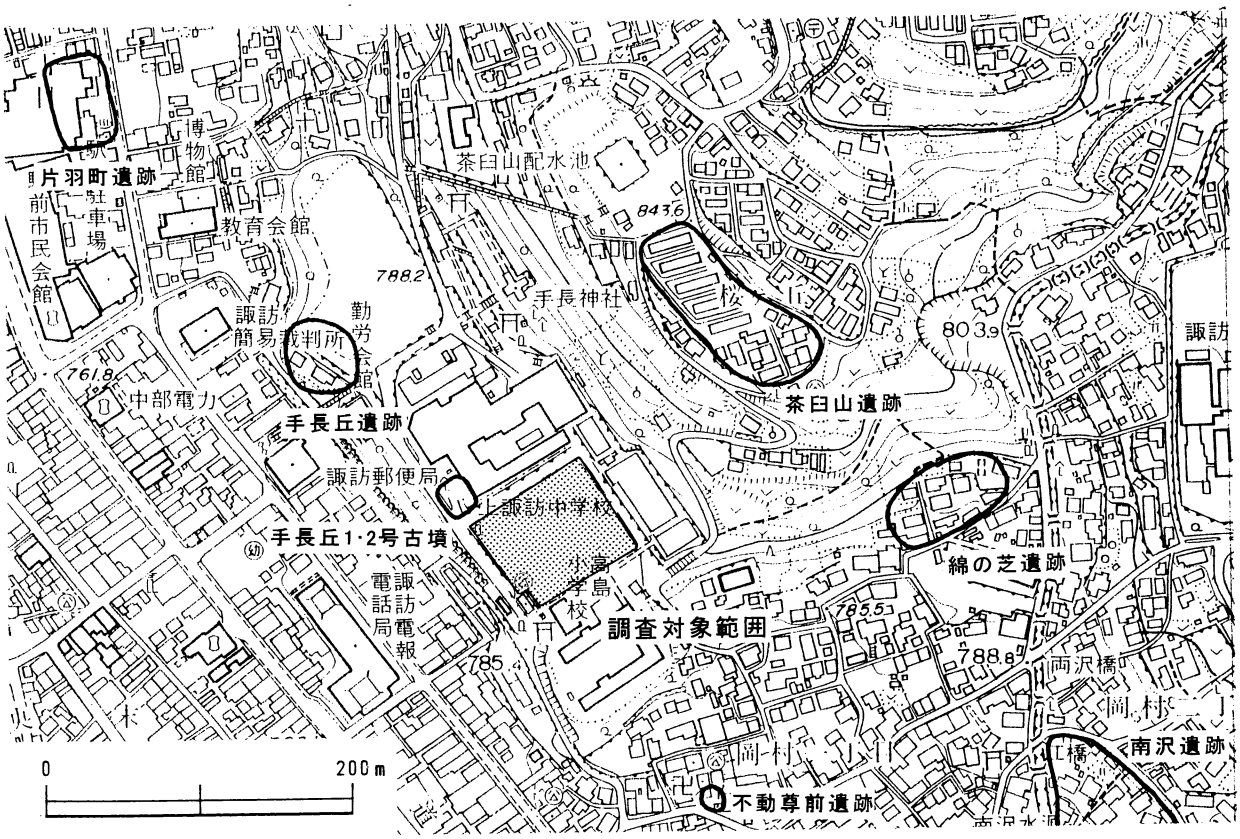
諏訪市立高島小学校は、諏訪湖を望む小高い丘に所在している。この丘は手長丘と呼ばれ、旧石器時代における諏訪湖東岸遺跡群のなかの手長丘遺跡や手長丘古墳等の遺跡が立地し、一段東側に登ると茶臼山遺跡や踊場遺跡など、旧石器時代の遺跡が点在する旧石器の丘である。また手長神社などの諏訪市指定文化財である歴史的建造物等も所在している。（第10図）

平成１２年７月に市学校教育課より、高島小学校の校舎が老朽化したため、改築を行う計画があるとの連絡を受け、設計段階において埋蔵文化財の保護について協議を行うこととなった。県教育委員会を交えた３者協議のなかで、埋蔵文化財の所在が不明なこと、近隣の状況から遺跡の存在する可能性が否定できないことなどの理由により、設計に先立って有無確認の試掘調査を行うことになった。試掘調査は、校舎を新築する校庭部分を今年度に、既存の校舎部分を校舎解体時にあわせて行うこととなり、今回の調査では、新しく校舎が建てられる校庭北側を中心に実施することとなった。

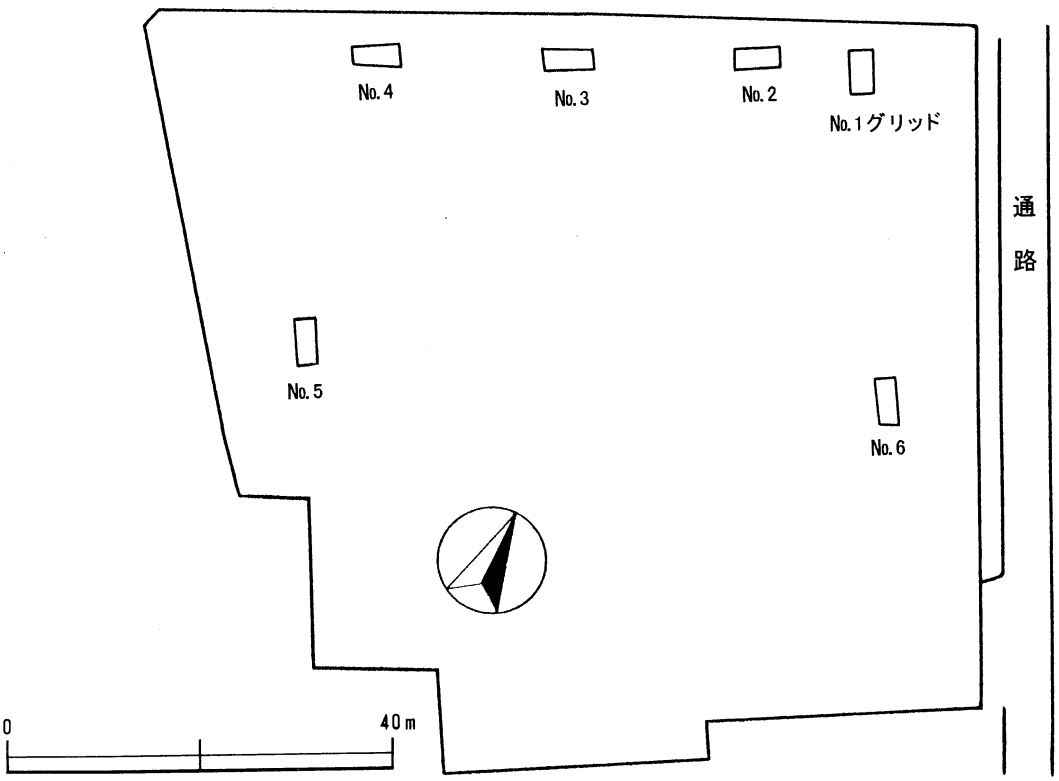
校庭部分については、過去に高島小の校舎が建てられていたこともあって（高島小学校は、明治３５年に手長丘に新築されており、その時の校舎が、現在の上中および小学校校庭の上に建っていた。）、削平や撹乱、盛土などの多量の土の移動が予想されたため、２m幅のトレンチを重機により掘り下げ、土層堆積等の確認を行った。現地はグラウンドのためほぼ水平であるが、本来は東から諏訪湖側の西方向に向かって、傾斜しているはずで、その方向において土層対比を行うために３ヶ所、また北から南側に向かって２ヶ所のトレンチを設定し、８月７日から９日の３日間で精査を行った。（第11図）

調査の結果、グラウンド下の土はすでに地表直下で包含層の可能性の無い下層のロームが検出されており、基盤層とも考えられる地盤が地表下１m程で確認できるほどであった。このため、縄文時代以降はおろか、旧石器時代についても包含層の存在は認められなかった。上部の土がかなり撹乱を受けており、旧校舎の建築によって、切り盛りをして多量の土砂移動が行われていることを表しているものと考えられる。土層堆積でみると、それほど湖側への傾斜は激しくなく、該地がどちらかというとこんもりとした丘ないしは山のような形状だった可能性もある。また、土層の中には、逆断層の様相も見受けられ、旧地形の復元は、困難であった。

以上のように、今回の調査では遺跡の存在を確認することはできなかった。茶臼山遺跡直下という立地条件と手長丘遺跡のあり方等を考えると、遺跡の存在していた可能性は否定できないが、校舎建築によりすべてが失われてしまっており、詳細については不明のままである。高島小学校建設については、現校舎の立地が舌状に延びる台地上にあるため、今後も工事日程と調整を取りながら、その都度調査を実施していくことになっており、台地縁辺部などでの様相を今後も注意する必要があろう。



第10図　遺跡位置図



第11図　調査区全体図

報告書抄録

ふりがな	しないいせきしくつちょうさほうこくしょ
書名	市内遺跡試掘調査報告書（平成12年度）
副書名	長野県諏訪市内遺跡試掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	諏訪市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第54集
編著者名	青木正洋・田中 総
編集機関	諏訪市教育委員会
所在地	〒392－8511　長野県諏訪市高島1－22－30　TEL0266(52)4141
発行年月日	2001年3月26日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
こなみみなみざわ 湖南南沢遺跡	すわし　こなみ 諏訪市湖南	20,206	329	36° 00′ 15″	138° 06′ 02″	2000.10.5	16	個人住宅建設に係る事前調査
ふくまつとざわ 福松砥沢遺跡	すわし　こなみ 諏訪市湖南	20,206	331	36° 00′ 14″	138° 06′ 08″	2001.3.12 ～3.13	12	個人住宅建設に係る事前調査
しみずくぼ 清水窪遺跡	すわし　かみすわ 諏訪市上諏訪	20,206	46	36° 01′ 59″	138° 07′ 45″	2000.11.10	6	個人住宅建設に係る事前調査
にほんまつ 二本松遺跡（隣接）	すわし　かみすわ 諏訪市上諏訪	20,206	21	36° 02′ 39″	138° 07′ 29″	2000.10.26	20	売買に先立つ有無確認調査
ほっけじけいだい （法華寺境内）	すわし　なかす 諏訪市中洲	20,206		35° 59′ 40″	138° 07′ 22″	2000.8.2 ～8.3	51	寺院建設に先立つ有無確認調査
たかしましょうこうてい （高島小校庭）	すわし　かみすわ 諏訪市上諏訪	20,206		36° 02′ 27″	138° 07′ 27″	2000.8.7 ～8.9	60	学校建設に先立つ有無確認調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
湖南南沢	散布地	縄文	なし	縄文土器片・近世陶磁器片	
福松砥沢	集落跡	縄文・平安	溝状遺構	縄文土器片・弥生土器片	
清水窪	散布地	縄文・弥生	なし	なし	
二本松	散布地	平安	なし	なし	包蔵地外
法華寺境内			なし	なし	包蔵地外
高島小校庭			なし	なし	包蔵地外

写 真 図 版

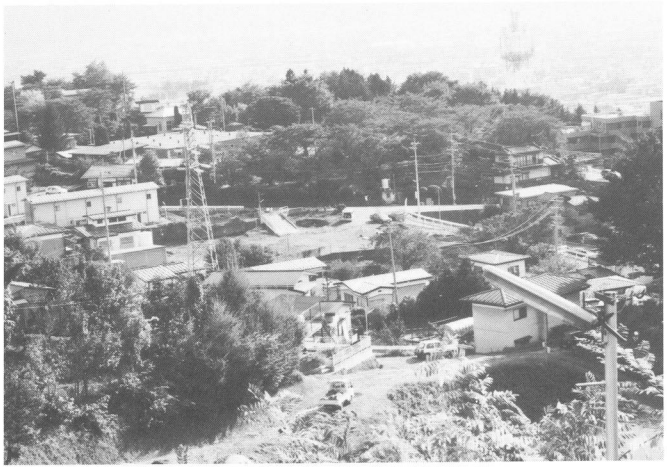
湖南南澤遺跡調査風景

湖南南澤遺跡 No.4グリッド

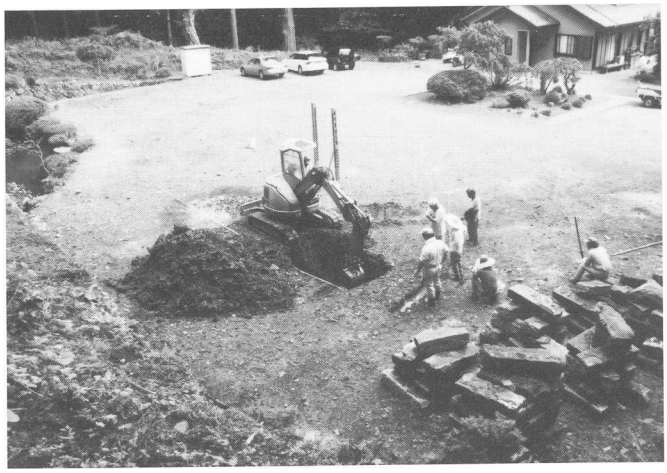
福松砥沢遺跡 No.1グリッド

清水窪遺跡近景

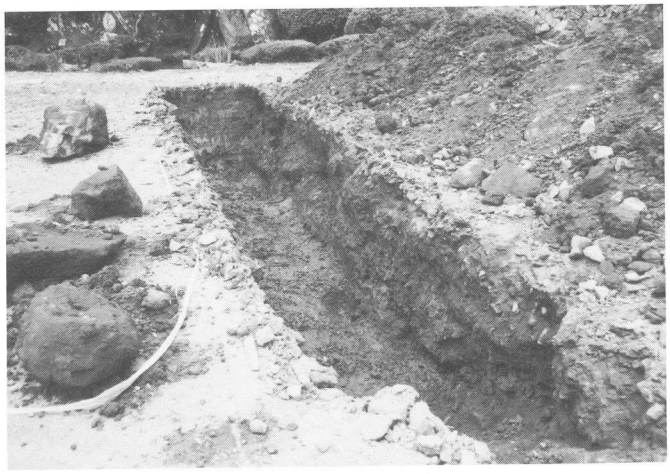
清水窪遺跡 No.2グリッド



二本松遺跡隣接地　遠景



法華寺境内試掘調査



法華寺境内試掘第１トレンチ

高島小学校校庭試掘調査

市内遺跡試掘調査報告書（平成12年度）

―― 長野県諏訪市内遺跡試掘調査報告書 ――

平成13年３月26日

編集・発行　諏訪市高島１―22―30
　　諏訪市教育委員会

印　　刷　(株)マルジョー上田印刷